

第1学年 国語科学習指導案

日時 平成24年11月12日(月) 4校時
学級 1年3組(男子17名、女子16名 計33名)
場所 1年3組教室
指導者 教諭 太田 和成

1 単元名 昔話の元になった作品を紹介しよう

2 単元について

(1) 生徒観

生徒は、中学校での古典学習は初めてとなるため、小学校でどの程度古典学習を行ってきたか本学級の生徒にアンケートをとった。結果は以下の通りである。

- ・百人一首をした・・・・・・・・・・13人
- ・百人一首の音読や暗唱をした・・・・・・・・8人
- ・平家物語の音読や暗唱をした・・・・・・・・9人
- ・竹取物語の音読や暗唱をした・・・・・・・・8人
- ・枕草子の音読や暗唱をした・・・・・・・・6人
- ・漢詩の暗唱をした・・・・・・・・・・1人
- ・源氏物語の暗唱をした・・・・・・・・・・1人
- ・昔の言葉が入っているものを音読した・・2人
(複数回答可)

小学校では、音読と暗唱を中心に学習してきており、第5学年及び第6学年「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導事項「ア(イ) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。」については、学習経験が少ないことがわかる。古典作品の内容について学習するのは初めてという生徒がほとんどであるため、現代語訳したテキストを用いて、本単元を中学校での古典学習の入り口として抵抗なく学習に入っていけるようにしていきたい。

また、本単元の学習活動を通して、古典作品も読書のジャンルの1つとして興味を示し、古典に親しもうとする態度を育てたい。

(2) 教材観

本単元では、第1学年「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導事項「ア(イ) 古典には様々な種類の作品があることを知ること。」と、第1学年「読むこと」の指導事項「カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。」を重点的に指導する。これらを指導するため、現在も読まれている昔話と、その元となった古典作品を比べて読み、描かれている内容から共通点や相違点を見つけ、それを古典作品のおもしろさとして紹介するという言語活動を設定する。また、その言語活動の過程で、作品の紹介にあたっては、元となった古典作品の現代語訳から引用して紹介するよう指導する。

教材については、教科書教材「伊曾保物語」(よくばりな犬)の他に、「御伽草子」(一寸法師、浦島太郎)、「今昔物語集」(わらしべ長者)、「宇治拾遺物語」(舌切りすずめ)を取り上げる。ただし、中学校での古典学習の導入であることを考慮し、生徒にはそれぞれの古典作品の現代語訳を読ませる。また、現在も読まれている昔話との共通点や相違点を紹介するために紹介カードを個人で作成し、その後グループで1つにまとめていく。そして、グループごとに作った紹介カードの発表会を行って交流することを通し、古典に親しむ態度を育てていく。

(3) 指導観

本単元は、全4時間の指導計画とする。

1時間目は、紹介カードのモデルを2つ提示し、それを比べて読むことで元になった古典作品と現在も読まれている昔話との共通点や相違点を引用しながら古典作品のおもしろさを伝えている紹介カードの要素に気付かせたい。その後、元になった古典作品と現在も読まれている昔話を比べて読みながら、グループで紹介する古典作品を決定させる。

2時間目は、実際に紹介カードを書いていく。ここでは、グループの紹介カードの「古典作品あらすじ」と「知っている話との違い」の決め方について交流モデルを示し、それを参考に交流させたい。

3時間目は、各自の書いた紹介カードをもとにグループで1枚の紹介カードを完成させるために交流する。ここでは、元になった古典作品と、現在も読まれている昔話との共通点や相違点について、引用の仕方に触れながら吟味してまとめていく交流モデルを示し、それを参考に交流させたい。

4時間目は、前時に完成させたグループの紹介カードの発表会を行う。ここで、他のグループが取り組んだ作品の紹介を聞くことで、現在も読まれている昔話の元となった古典作品である説話や物語への興味、関心を喚起させ、今後の中学校での古典学習への意欲へとつなげていきたい。

3 単元の目標及び指導計画（4時間扱い 本時3/4）

(1) 単元の目標

- ・ 古典の文章に関心を持ち、その内容を進んで紹介しようとしている。 [関心・意欲・態度]
- ・ 現在も読まれている昔話と古典を読み、紹介するために必要な情報を読み取ることができる。 [読むこと カ]
- ・ 古典には様々な種類の作品があることを理解することができる。
[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1) ア (イ)]

(2) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
① 昔話の元になった古典作品に関心を持ち、紹介しようとしている。	① 昔話の元になった古典作品と現在も読まれている昔話の共通点や相違点を適切に引用しながら紹介カードにまとめている。	① 現在も読まれている昔話の元となる古典作品である説話について理解している。

(3) 指導と評価の計画（4時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	○ 学習の流れを理解し、見通しをもつ。	・ 学習の流れと言語活動の内容を具体的に示し、学習の見通しをもたせる。	[国語への関心・意欲・態度]① 観察、学習シート
	紹介カードの要素を理解する。		
	○ 紹介カードの要素を確認する。 ○ 引用の仕方を確認する。	・ 紹介カードのモデルから、要素に気付かせる。 ・ 紹介カードのモデルから、共通点や相違点を紹介するために引用が必要なことに気付かせ、本単元における引用のルールを確認する。	[読む能力]① 学習シート
2	紹介する古典作品を決める。		[言語についての知識・理解・技能]① 観察、学習シート
	○ 内容や面白さを紹介してみたい古典作品をグループで決定する。	・ 4人(3人)グループで話し合い、決定させる。 ・ 1つの作品につき、1~2グループが担当する。	
3 本時	現在も読まれている昔話と、その元になった古典作品の現代語訳を比べて読んで、紹介したい内容を紹介カードにまとめる。		[国語への関心・意欲・態度]① 観察、学習シート
	○ 紹介したい内容を個人で紹介カードに書く。 ○ 個人の紹介カードをもとにグループで「古典作品あらすじ」と「知っている話との違い」を完成させる。	・ 紹介カードの要素はモデルを参考にさせる。 ・ ベースとなる紹介カードを決め、必要に応じてつけたしていく交流モデルを示し、それを参考に交流させる。	
4	グループの紹介カードを完成させるために交流する。		[国語への関心・意欲・態度]① 観察、学習シート
	○ 個人の紹介カードをもとに「ここが面白い!」を完成させるために交流する。	・ 引用の仕方に触れながら吟味してまとめていく交流の仕方のモデルを示し、それを参考にして交流させる。	
4	古典作品の紹介を聞き合い、自分が読みたい古典作品を決める。		[国語への関心・意欲・態度]① 観察、学習シート
	○ グループごとに紹介カードの発表を行う。 ○ 紹介を聞いて、読んでみたいと思った作品を決める。	・ グループ内で役割分担をして発表させる。 ・ 読みたい作品を決める際には根拠を示させる。	

4 第1時の指導

(1) ねらい

- ・ 現在も読まれている昔話と、その元になった古典作品を比べて読み、取り組みたい古典作品を決める。

(2) 展開

段階	学習活動	学習内容	指導の手立てと評価
導入 15分	1 小学校での学習の振り返りをする。	○ 古典学習の履歴の想起 ・ 音読、暗唱の学習が多かった。(アンケートより)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校でどんな古典学習を行ってきたかのアンケート結果を提示し、古典学習についてのイメージをもたせる。 ・ 知っている昔話についてのアンケート結果を提示し、どんな話だったか思い出させる。本単元で扱う昔話については、事前に読ませしておく。 ・ 紹介するためには何が必要かを考えさせた後、紹介カードのモデルを提示する。 ・ 本単元の学習のゴールは、作成した紹介カードの発表を聞き合い、多くの古典作品に触れることであることを伝え、見通しをもたせる。
	2 単元の学習活動について見通しをもつ。 (1) 知っている昔話を思い出す。 (2) 紹介カードのモデルを提示する。		
展開 30分	(3) 単元の学習計画を立てる。	○ 発表会までの学習の流れ ・ 個人→グループ→全体発表会	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【評価】古典作品に関心を持ち、紹介するために意欲的に読んでいる。(観察)(学習シート)</p> </div>
	3 本時の学習課題を把握する。 ◎ 紹介する古典作品を決めよう。		
展開 30分	4 学習課題を解決する。 (1) 紹介カードの要素について考える。	○ 紹介カードの要素 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <input type="checkbox"/> あらすじ <input type="checkbox"/> 知っている話との違い <input checked="" type="checkbox"/> ここがおもしろい! * ■については、現在も読まれている昔話とその元になった古典作品の共通点や相違点を引用を入れてまとめる。 </div> ○ 引用の仕方 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <input type="checkbox"/> 本文からそのまま抜き出す。 <input type="checkbox"/> 引用部分は、「」で示す。 <input type="checkbox"/> 古典作品から引用する。 * 出典を明らかにすることも必要。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介カードのモデル2枚を比較しながら、要素を確認していく。 ・ 引用の効果と必要性について気付かせ、引用の仕方を確認する。 ・ 2枚のモデルに書かれている内容を合わせると、さらに内容が充実したものになることも確認しておく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【評価】紹介カードの要素と引用の仕方について理解することができる。(学習シート)</p> </div>
	(2) 紹介する古典作品を決める。		
終末 5分	5 本時の振り返りをする。 6 次時の学習の見通しをもつ。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介カードの要素と引用の仕方を理解していることが、2時間目以降の紹介カード作りに必要なことを確認する。 ・ 次時は紹介カードを作ることを確認する。

6 第3時の指導（本時）

(1) ねらい

- グループで紹介カードを完成させるために交流する。

(2) 本時の評価規準

評価の観点	観点別評価規準		
	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
国語への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> グループの紹介カードを完成させるために引用する範囲が適切かについて意欲的に交流している。 	<ul style="list-style-type: none"> グループの紹介カードを完成させるために引用する範囲が適切かについて交流している。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ内の他の生徒の発言に対して自分の考えをもつように促す。
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> 古典作品のおもしろさを紹介するために必要な情報として適切な範囲を古典作品から正確に引用し、紹介カード作りに生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 古典作品のおもしろさを紹介するために必要な情報を古典作品から引用し、紹介カード作りに生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ内の生徒の紹介カードから必要な情報に気付かせる。

(2) 展開

段階	学習活動	学習内容	指導の手立てと評価
導入 3分	1 前時の学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。		<ul style="list-style-type: none"> 紹介カードの要素を確認する。 引用の仕方について確認する。 次時の発表会に向けて、グループで紹介カードを完成させることを確認する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ◎ グループの紹介カードを完成させるために交流しよう。 </div>		
展開 42分	3 学習課題を解決する。 (1) 交流モデルから交流の仕方について理解する。 (2) グループの紹介カードを完成させるために交流する。 (3) 交流について振り返る。	○ 交流の仕方 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> [B] 引用の仕方に触れながら吟味してまとめていく交流の仕方。 </div> ○ 引用の妥当性 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <input type="checkbox"/> 古典作品のおもしろさを紹介するための引用として、引用する範囲が適切か。 <input type="checkbox"/> 本単元での引用の仕方に沿っているか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> どのような交流の仕方があるかを考えさせた後、交流モデルを提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【評価】 グループの紹介カードを完成させるために引用する範囲が適切かについて意欲的に交流している。(観察)(学習シート) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【評価】 古典作品のおもしろさを紹介するために必要な情報として適切な範囲を古典作品から正確に引用し、紹介カード作りに生かすことができる。(学習シート) </div>
終末 5分	4 本時の振り返りをする。 5 次時の学習の見通しをもつ。		<ul style="list-style-type: none"> 次時はグループの紹介カードの発表を聞き合うことを確認する。

7 第4時の指導

(1) ねらい

- ・ 古典作品の紹介を聞き、自分が興味をもって読みたいと思った作品を決める。

(2) 展開

段階	学習活動	学習内容	指導の手立てと評価
導入 3分	1 前時の学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。		
	◎ 古典作品を紹介し合い、自分が読む作品を決めよう。		
展開 40分	3 学習課題を解決する。 (1) 紹介の仕方について確認する。 (2) グループごとに古典作品を紹介する。 (3) 紹介を聞いて、読んでみたいと思った作品を決める。	○ 発表会の流れ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品名、「あらすじ」の紹介（1人） ・ 「知っている話との違い」の紹介（1人） ・ 「ここがおもしろい！」の紹介（1～2人） </div> ○ 古典作品の種類 <ul style="list-style-type: none"> ・ 説話 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介の仕方を確認し、役割分担をさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【評価】 グループでの発表に意欲的に取り組んでいる。（観察）（ワークシート） </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介を聞きながら、ワークシートに気付いたことを記入させる。 ・ 選んだ理由をワークシートに記入させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【評価】 現在も読まれている昔話の元となった古典作品には、説話という種類があることを理解することができる。（ワークシート） </div>
終末 7分	4 本時の振り返りをする。 5 単元全体を通して学習したことを振り返る。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元を通しての感想や付いた力等について聞く。 ・ 次の単元では『竹取物語』を読んでいくことを伝え、昔話の「かぐや姫」を思い出させる。 ・ 中学校でのこれからの古典学習で扱う様々な種類の作品について簡単に説明し、学習の見通しをもたせる。

古典作品介绍カード

■ 昔話の元になった作品を紹介しよう

一年 組 番(氏名)

作品名

Blank box for writing the title of the work.

☆
()

() という昔話の元になった作品です。

☆こころがおもしろい！

古典作品あらすじ

Blank box with vertical dashed lines for writing the synopsis of the classical work.

知っている話との違い

Blank box for writing the differences between the known story and the classical work.

Large blank box for additional notes or reflections.